



12月10日 平和のバラ保育園 お遊戯会

島のひかり ホームページアドレス
<http://lifeaidgoto.jp/cx/simanohikari/>



発行

カトリック浦頭教会
 広報委員会
 五島市平蔵町2716
 TEL 0959-00072
 印刷・(株)才津印刷所

節目の年に向って

主任司祭 岩崎 晋吾

神よ、私たちにお与えください。変えることのできないものを受け入れる冷静さと、変えることのできるものを変える勇気を。

そして、この二つを見分けるための知恵を。

一九四三年にラインホールド・ニーバー牧師が唱えたこの言葉は、多くの人の琴線に触れた祈りとして有名です。

二〇一七年を迎えました。新しい年の出発にあたって、皆さんも様々な抱負をもって希望と期待の中で、今年を迎えられたのではないのでしょうか。皆さんにとって、今年も神の祝福に満ちた良い年でありませう、お祈りいたします。

さて、浦頭教会にとりまして今年は大変な時期に入っています。来年は小教区設立五十周

年を迎える節目の年となり、今年からその準備に入るようになるでしょう。記念行事などの様々な準備はもちろんですが、教会共同体の成長の節目としてとらえ、これを機会にさらなる共同体の発展を願いたいと思います。

浦頭教会の信仰共同体は、現在の小教区の設立以前から堂崎教会を中心とした信仰の歩みの歴史をもっています。一〇〇年以上の歩みの中で決して変わらなかったもの、変えてはいけないものが今のこの共同体の中に息づいています。それは一体何であるのかを、この節目の時に冷静に再確認して行けたらよいと思います。また、さらなる教会の成長の為に変えることのできるものを見分け、変える勇氣をもって取り組むことができるならば、五〇年の節目というものが本物になっていくことでしょう。節目は単に歳月を刻むことではなく、共同体の命そのものに成長の変化をもたらすものです。

主の御降誕と新年のお慶びを申し上げます

広報委員長 竹山要司



昨年は、浦頭小教区役員を始め、信徒の皆様

に送るの事について感謝致します。

特に役員になられた方は、職場、家庭、地域、教会と様々な役を背負っています。本当にお疲れ様です。

最近、嬉しいことに青年会が復活し、教会も若返りを見えています。今後の活躍に期待したいと思います。

青年会と言えば、私の四〇数年前を思い出します。その頃は高校生と青年と一緒に学習・活動していたが、余りにも人数が増えて分かれる事になった。そこで、学習場所を確保する為に建物が必要。

そこで考えたのが、バザーをしよう。そこで沢山の方々に呼びかけ、不要な物を頂きました。特に、仁川学院に居た竹山栄神

父様からは沢山の陶器が送ってきて、大変嬉しかったことを覚えていています。

そこで、平和のぼら保育園の運動場をお借りしてバザーを行ったところ、飛ぶように売れてしまいました。その時の収益と教会の経済さんより手伝わってもらい、今の子羊の家が完成したのです。

そこで聖具を販売し、毎週水曜日の夕方は聖書の勉強をしていたが、ある日、勉強をしないでビールを飲んでいたことがあった。そこへ神父様が登場。恐い顔で注意されたが、間もなくしてウイスキーを片手に入ってきた時の顔は天使でした。

思い出話になってしまいました。が、今は教会と「おくうら夢のまちづくり協議会」が協力してクリスマス・イルミネーションも輝きを放っています。今年も良い年でありますように。

牢屋の窄殉教祭

本村 義則

十月三十日、日曜日。久賀島において浜脇小教区主催、下五島地区評議会協力のもと殉教祭がおこなわれました。福江島の六小教区は檜ノ浦港から、奈留小教区は奈留島から海上タクシーにて浜脇へ。集合場所の久賀小中学校までは、タクシーとワゴン車での移動でした。歩いた方々もありました。行列に参加しない方々は殉教地まで送っていたことができました。十二時三十分、司祭団を先頭に丸太作りの十字架とその担ぎ手、次に信徒の順にロザリオを唱えながら殉教地をめざし行列を進めました。およそ三十五分ほどの道程でした。式は記念碑の碑文の朗読から始まりました。その概要を記します。「弾圧の始まりは、明治元年九月、捕えられ過酷な拷問を受ける。十二月殉教の地に二百余名が収容される。建物は奥行二間、間口三間の家牢。半分に仕切り男と女を分けた。中は身

動きもできず、人体にせり上げられて足さえ地に着かないものもあつた。飢えと苦痛のため死者が続出。死体は五日間も放置。うじがわき、その有様は言語に絶する惨状であつた。ドミニカたせ、十才のマリアたきも天に召された。七才のマリアさもは『イエズス様の五つの御傷に対して祈らねばなりません』の一語を残して息を引き取つた。殉教者三十九名。良民であつたのに、信仰は忠実、神の掟を重んじただけでこの責め苦を受けた。……」

碑文朗読の後、花束が供えられ、殉教者の血を受け継ぐ私達は心をひとつにミサ聖祭を捧げました。参加者は二百五十名ほど。遠くは東京からの参加がありました。参加する方々も減少しつつあるのでしようか。年ごとにお年寄りの割合が増しているような気がします。この地に来て、彼等の神様を信じる力、信仰の強さを感じました。私も彼等を目標に、日々の生活を生きたいと願っています。

私たちの新たな決意

還暦を迎えて

木口 武雄



十二年
前も「年
男」とし
て新年の
抱負を書

きました、時は流れ、気が付
けば子供二人も一人前になり、
私は六十歳の還暦を迎えます。

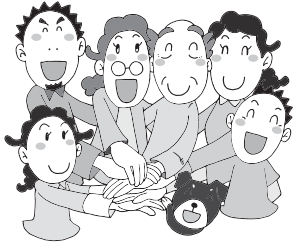
「還暦」とは暦（こよみ）が
還（かえ）る、一巡して生まれ
直しという意味があるそうです。
（赤ちゃんに戻る）ことから、赤
色のちゃんちゃんこを着る慣習
があります。）

四十年近く同じ職業に就き、
その道一筋できましたが、再ス
タートとして何か新しい事・学
びについてもチャレンジしてい
きたいと思えます。（嫁は、料

理等の家事を勉強したらという
が…）

また、女性に比べて社会や人
との関わりが不得手な男性が多
いと言われていますが、私もま
だ長いかもしれない人生、良い
つながりを持ち続けられるよう
努力したいと思えます。

平成二十九年元旦にこの文章
を書いていますが、明日、同級
生でもある編集長の木口重憲君
ら幹事のお世話で、奥中同窓会
（昭和四十八年卒業）が福江の
カンパーナホテルで開かれます。
懐かしい顔に会い、還暦で迎
えた新しい
門出を共に
祝うことを
今から楽し
みにしてい
ます。



新年にあたって

木口 静枝



『明けまして

おめでとうございます』

今年も家族皆、特に大きな病
気をする事なく、健康で新年
を迎えることができたことを感
謝します。祈りの足りない私で
も新年はやってきました。新年
だからといって特に変わった事は
ありません。しかし、同じよう
でもそうではありません。子供
達は成長し、喜びと楽しさを与
えてくれました。反面、私は加
齢とともに身体の衰えを感じま
す。

元旦早々、夜勤で毎年の事で
はありますが、家族全員でゆっ
くり過ごすことはあまりない。
申し訳ないですが、家族も心得
たもので、仕事だと言っても

「ああ、そうなの。」とあまり期
待もしていない様子。複雑な気
分。年末の掃除も正月の料理も
そこそこで、仕事だからと言
訳をして手抜きできるのも今年
で最後となります。

夫と子供達は口をそろえて言
います。「母さん、退職したら
何するの。毎日一日中ボーッと
していたらボケてしまうよ。ま
だ元氣だから仕事続けたら。趣
味を何か作らんばねえ。」家族
が心配するのも理解できます。
これといって、何の取り柄も趣
味もない私の行き着く所は見え
ています。

そこで、今年も定年退職後い
かに充実した生活を過ごすこと
ができるか模索し、また、衰え
てきた身体機能の低下を防ぐよ
う、何か運動を継続する年にし
たいと思えます。



下五島地区 スポーツ交流大会



くしくも、オリンピックと同じサイクルで行なわれる交流大会。今年は、爽やかな天候にも恵まれ、和気あいあいの中、白球を追った。

ソフトボールの試合は、神父様方の解説つき。時に、ちょっとしたブラックユーモアも入ります。「このチームは強過ぎだけど、普段は何をしているんでしょうか。」途中から選手の名前紹介が始まります。「…：選手。いかにも打ちそうな名前です。」：「残念！名前だけでした。」浦頭チームは元気チーム。思い切り振り切ったバットは空を切り、顔だけがベンチを向いた後、「ニコッ！」エラーしてもユーモアたっぷりのジョークが飛び交います。

浦頭チームは全員参加しながら優勝の栄冠を勝ち取り、夜の祝勝会の楽しみに浸りました。



スポーツ交流大会 に参加して

木口 育美

晴天の秋空の下、十一月十三日下五島地区スポーツ交流大会が開催され、私はソフトボールに参加させていただきました。

練習不足で皆さんの足を引っ張ってばかりでしたが、ソフトボールを通して浦頭地区の信徒の皆さんをはじめ、他の下五島地区の信徒の皆さんとも交流を深めることができて、とても楽しい一日でした。

また、アベック優勝という素晴らしい成績を収めた浦頭地区の信徒の皆さんの団結力の強さを実感いたしました。

選手の皆さん、お疲れ様でした。

そして、大会にあたり色々準備して下さいました役員の方々、応援して下さいました方々、本当にありがとうございました。

スポーツ大会に 参加して

梅木 有沙

十一月十三日に、下五島地区教会親睦スポーツ大会がありました。女子は二チームに分かれ、この日のために三回ほど練習も行いました。

浦頭教会のチームカラーである黄色のシャツを着て、優勝を目指して頑張りました。

決勝は、強敵シスターズ。シスターの粘り強いプレーとチームワークの良さには驚きました。たくさんの応援と練習の成果が実を結び、優勝することが出来ました。浦頭の結束力は、どこにも負けないと思います。これからも、この「結束力」を大事にしていきたいと思います。



教会イルミネーション

十一月二十日、クリスマスイルミネーションを前年と同様、信徒以外の地域の方々（住民・市・県職員等）の協力のもと、無事に設置することができました。浦頭と堂崎二手に分かれて十時〜昼過ぎに作業を終え、夕方六時半より点灯式及び奥浦混声合唱の歌により、冬の寒空に光り輝く教会に花を添えて頂きました。



当日はNHKの取材もあり、十二月に入り放送を見ることができました。色々なメディアの影響か、例年にも増してイルミネーションを見に来られる方が多かったと思います。奥浦地区のイルミネーションとして定着しているこの作業は、地域住民の絆のともしびでもあるため、長く続けていければと思います。



祝成人 おめでとう

一月一日、元旦。新成人の三名は教会での信徒の人達からのお祝も受け、喜びの二重奏に包まれた。浦口千愛さん、川口良平さん、浜辺 恵さん。はにかみながらも、しっかりと自分の進路を語った。

三名の若者の未来が「幸」多からん事を祈ります。



以下、成人式を迎える三名に對して、青年会を代表して、木口大地さんのあいさつ…掲載…

あけましておめでとうございます。そして、新成人のみなさん、ご成人おめでとうございませう。これから、みなさんは大人の仲間入りをしていくこととなります。今までもいろいろな経験をされてきたと思いますが、これからはまた違った経験がでさると思いますので、お互いに楽しんでいきましょう。

『人生は短期的にみれば悲劇であり長期的にみれば喜劇である』という言葉があるように、辛い時もあると思います。その時をがんばっていけば、後で振り返った時、自分が一番楽しめる喜劇ができあがっていると思うので、がんばっていきましょう。最後に、ご両親への感謝の気持ちを忘れず、日々を過ごして下さい。

以上で簡単ではありますが、お祝いのあいさつとさせていただきます。



新年会

一月八日(日) 十時より、クリスマスイルミネーションの撤去作業が行なわれた。これも、奥浦ゆめのまちづくりの皆さんと、教会信徒が一体となり、頑張った事もあって、約一時間で終わる事が出来た。五時から、毎年おなじみの持ち寄りの新年会が神羊館ホールで行なわれ、食べきれないほどの料理が集まった。神父様の挨拶の中で、これからの教会は地域の方々と一体となって活動しなければ難しくなっている、と話されました。

本年も 共に頑張りますよ。深夜遅くまでのおつき合い、本当にお疲れさまでした。



故・松下神父様

をしのんで

島のひかりの文章作りに追われているなか、「そういえば、一月十五日は松下神父様の命日だったよね。」という言葉聞いた。思いは昔をかけめぐる。さかのぼる記憶の糸をたどっても、最初に出て来る神父様は松下神父様だ。太く厳かなラテン語が、時に潮騒が流れて来る堂崎天主堂に、時に小川のせせらぎが微かに聞こえる(昔の)浦頭教会に響き渡る。

神父様は、一徹を自称し、哲学とカトリックの融合の中で、一円点という世界を子供達に、大人に説明し続けた。

ある日曜日、堂崎の朝ミサに朝食を食べずに行った。ミサが終わり帰ろうとしたが、腹が減って動けない。Srが松林の中の司祭館に連れて行ってくれた。

神父様と二人並んで静かに箸をすすめた。今、その時流れていたしーんという音を憶い出す。

おたより

十 Ave・Maria

「島のひかり」を届けてくれまして本当に感謝しております。

「島のひかり」を通して、教会の活動・祈りを知る事が出来るこの上ない喜びです。

東京都練馬区 出口登代美

”ありがとう”

皆様、善き新年を迎えたものと存じます。

「島のひかり」は、この小教区の歩みを記録する一役を担い、おたよりや御芳志等、御協力頂き、感謝のうちに続けることができます。

- 三田市 梅木 栄二郎 様
- 岩瀬浦 峯下 笑子 様
- 神戸市 峯下 喜美代 様
- 千葉市 入口 春男 様
- 福江市 外輪 力夫 様

秘

跡

《洗礼》

マリア 宮川 結衣

(十一月六日)

ラファエラ・マリア

鍋内 めぐみ

(十二月十八日)

《堅信》 (一月十五日)

パウロ 入口 駿一朗

ヨゼフ 鍋内 優海

《帰天》

マリア 藤原フミエ (九十五歳)

(一月八日)



奥浦地区避難訓練

十一月二十七日、奥浦町内会において、町内会住民及び小・中学校を対象とした合同避難訓練が実施された。今回は普段の学校での訓練とは異なり、風水害による避難勧告が発令され、避難場所である中学校体育館に住民は班単位、生徒はクラス単位で徒歩で避難した。また、避難者のサポートで地区消防団や警察の出動もあり、大規模な訓練となった。



救護訓練

体育館避難後、学校側から保護者への生徒の引き渡し訓練や、災害講話、消防署からAEDの扱い方と搬送訓練を学んだ。

近年、自然災害が多く、自分がかまされ被災者になるとは、といったニュースが度々飛び込んでくるが、今回の実施訓練は住民にとって意識・行動として役立つと思います。来年度以降は順次、各奥浦地区町内会でも避難訓練が実施予定ですので、万が一の際は「地域の絆」で被災者0であればと思います。

奥浦さるく 戸岐・宮原をさるく

十一月三日、恒例のまち歩きが、小・中学生の生徒全員や五島市内の歴史に興味ある人達が集まって行なわれた。

戸岐在住の相浦さんが、戸岐大橋から始まって、町内の史跡ポイントを丁寧に説明。特に金脈を掘り当て財をなした金山翁の墓の壮大さは「ここにこんなものが」とみんなが驚かされていた。

その後、宮原教会にまつわる（現在、堂崎教会にある）三枚の木版画の物語りを聞き、峠の展望台の眺望に癒され、帰路についた。



戸岐・金山翁の墓の下で

編集後記

すぎし「さるく」年。熊本大震災に悩まされた一年でした。その余波は、一度だけ五島にも影響があったのを憶えています。それで、教会の祈りも「すべての被災者のための祈り」になった。

変わったと言えば、アメリカの大統領も「オバマからトランプ」に変わり、テレビ等の報道を聞くにつけ、本当にこれから世界は大丈夫かとさえ思うこの頃である。今年は「とり」年。大いにはばたく年であれと思う。教会内の照明も古くなりLEDに変える予定。今年度に完了するでしょう。「島のひかり」も地道に頑張っています。今年も宜しくお願い致します。

- 竹山 要司 木口 重憲
- 赤尾 淳 竹山 巧
- 入口 信 小田 洋市
- 江口 初子 田川小枝子
- 木口 誠也